

週刊ブロック通信

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信
購読、広告の
お申し込みは
TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp

(株)公共事業通信社

防草ブロックが

愛知環境賞を受賞



全国防草ブロック工業会(会長 矢野明正氏)が普及を進める防草ブロックと防草エレファントレンの「世界初の防草機能を持つ道路二次製品」が、2016愛知環境賞(主催・愛知県)の銅賞を受賞した。表彰式が18日、ローズコートホテル(名古屋市中区)で行われ、全国防草ブロック工業会の矢野明正会長に共催者の環境パートナー

ーシップCLUBの安井香一会長から表彰状が授与された。全国防草ブロック工業会製品の技術表彰は環境賞優良賞(日立環境財団)、国土技術開発賞に続き3度目。

愛知環境賞は省資源・省エネルギーサイクルなどに関する優れた技術や活動などを表彰して、資源循環型社会の形成を促進すると共に、愛知県の環境技術や環境活動のレベルの高さを全国に向けて発信する制度。今回は

41件の応募があり、審査の結果15事例が受賞。金賞に「究極のエコカー燃料電池自動車MIRA I

の開発」(トヨタ自動車)、銀賞に「地域連携による、地域に根付いたESD子

供たちの未来へつなぐ、ふれ愛パークプロジェクト」(トヨタ車体)、銅賞に「植物の特性を利用した防草技術」(全国防草

ブロック工業会)と「サーマリサイクルしていた使用済み有機溶剤(高不

要物、高粘着)のマテリアルリサイクル化による

アルリサイクル化による

業態変革」(豊田化学工業)が選ばれた。

防草ブロックと防草

エレファントレンは植物の生長メカニズム(屈

性)を利用した防草機

能を備えたコンクリート製品とグ

レーチング製品。独自の目地形状

により、雑草の成長方向が逆向き

となるため繁茂することなく自ら

成長を止め枯死する。従来の防草

対策工事や製品、技術などを使用

することなく道路用二次製品に

よる目地防草が可能。今回の受賞

では、植物の成長特性を利用した

防草効果を持つ道路用二次製品の

開発により、除草や防草対策工事

に必要な機械・資材の使用削減に

つながり、環境負荷の低減に大き

く貢献する点が高く評価された。

愛知環境賞の受賞について矢野

会長は「識者の方々から高い評価

を頂いたことを大変嬉しく思う。

愛知県と日本を代表する企業の皆

様と揃っての受賞は私共にとって

またコンクリート製品業界にとつ

ても非常に栄誉のあることで光栄

に思っている。防草ブロックの技

術は施工後、人も車も電気も何も

必要ない環境負荷ゼロの製品だ。

愛知環境賞の受賞を機に防草技術

の幅広い製品展開を図り、愛知か

ら東海へ、そして日本全国へと広

げ環境改善に貢献していきたい」と話している。

電線埋設の設置基準を緩和

国土交通省

国土交通省は無電柱化の推進に向け、「電線等の埋設物に関する設置基準」を緩和した。基準緩和を通じて、浅層埋設や小型ボックス活用埋設等の低コスト手法の導入によるコスト縮減を図り、本格的な無電柱化を推進する。改定基準は4月1日から運用を開始する。

新基準では交通量の少ない舗装厚50cmの生活道路で埋設工事を行う場合、ケーブルや小径管では従来の路面下80cmから35cmへ、大径管は60cmへ緩和。また舗装厚20cmの幹線道路の歩道では、径の太さに関係なく埋設位置を従来の40cmから15cmへ緩和した。更に道幅が広く交通量が多い幹線道路の車道で埋設工事を行う場合、ケーブル收容管の径の太さに関係なく、路床上部からの深さ30cmとしていた従来の基準を10cmに緩和した。新基準によりコストは1割程度削減できると見ている。

外壁タイル効率再生
モルトールを開発
竹中工務店



全体会議シンポ開催
未利用資源開発に軸足
資源循環コンソ



H27建設受注6.9%増
公共減を民間が下支え
国交省

